

H26 試験研究課題評価一覧 (概要)

部会	評価区分	試験研究課題名	部会評価	外部評価	試験期間	対応方向
農産部会	事前	水稻普及品種へのカドミウム超低吸収性の付与	A	A	H27 ～31	カドミウム低吸収性の導入については、普及面積の大きい品種から順次取り組むこととし、DNAマーカーを活用して効率的かつ確実に進めていく。
	事前	異常高温条件下における肥効調節型肥料栽培に対応した高品質米生産技術の確立	A	A	H27 ～29	品質が特に問題となっている移植コシヒカリについて課題を設定し、農林振興センターと連携しながら、現地試験にも取り組む。
	事後	乾田V溝直播の安定栽培技術の確立	A	A	H23 ～25	今回得られた成果について、今年度から射水市の現地圃場で、体系的に実証試験を実施している。
	事後	土壌診断法を活用したダイズ立枯性病害の防除技術の開発	A	A	H23 ～25	発病の予測精度向上を図るとともに、マニュアルが使いやすいものとなるよう、必要に応じて診断票の改定を行ってゆく。
	追跡	低コストが実現できる大麦あと大豆の耕うん同時畝立て狭畦栽培技術	a	a	H20 ～23	耐倒伏性の高い大豆品種への適用や作業の高速化について、現地圃場で実証試験を実施している。
園芸部会	事前	タマネギ新作型開発と水田輪作におけるタマネギ栽培の体系化	A	A	H27 ～29	秋まきと春まき作型が併せて定着できるよう、単収及び品質の高位安定化のための技術開発を行うとともに、経営体に合う野菜品目を提案できる輪作体系化に取り組んでいきたい。
	事前	リンゴ優良中生品種の各種わい性台木との親和性の解明	A	A	H27 ～31	供試品種は「秋陽」「シナドルチェ」「シナゴールド」「シナノスイート」、台木品種は「JM7」「M26」で実施し、それぞれの親和性、果実品質特性等を明らかにする。
	事後	世界的に貴重な遺伝資源を活かしたチューリップ新品種の育成と新規需要の創出	A	A	H23 ～25	育成品種の特性については、情報発信に努める。増殖については、行政、普及と連携したシステムを構築したので、適切に対応していきたい。
	事後	チューリップ土壌伝染性ウイルス病を抑制するための施肥技術の開発	A	A	H23 ～25	肥効調節栽培することで、球根収量を確保しつつ土壌伝染性ウイルス病が抑制できた。この結果を総合防除マニュアルに反映させ、球根生産者に広く普及させたい。
	事後	ニホンナシ「幸水」の摘心処理による生産安定	A	A	H21 ～26	普及拡大のため、梨栽培経験の浅い生産者にも理解し易い技術指針(導入マニュアル)を作成し、普及拡大を図る。

部会	評価区分	試験研究課題名	部会評価	外部評価	試験期間	対応方向
畜産部会	事前	ドライエイジングによるプレミアム牛肉の生産技術の解明	A	A	H27～29	県内外の先進事例を参考に既に技術を持つ企業・大学等と連携し、食肉として評価の低い牛肉の高品質化や将来的に生産者が取り組む6次産業化を支援する技術確立を目指す。
	事前	肉用肥育牛向け大麦わらサイレージ給与技術の開発	A	A	H27～29	麦わらサイレージを和牛の肥育中期に給与する技術を提示するため、粗飼料や血中のビタミンA含量を把握しながら高品質牛肉生産を目指す。
	事前	マスキング資材等による畜産臭気抑制技術の開発	A	A	H27～29	混住化の進む環境の中で、畜産経営を持続的に展開するため、コストを見極めながら、臭気のマスキング技術を開発する。
	事後	種豚の繁殖能力及び精液の耐凍能評価試験	A	A	H23～25	新たに系統認定された「タテヤマヨークII」に、今回有効とされたL種などを交配し、繁殖データ等の精度を高めるとともに、農家の要望に応えるため交雑種雌豚の直接供給を行い、早急に研究成果の普及に努める。
	事後	性選別精液活用による受精卵生産技術の確立	A	A	H23～25	酪農家の要望が多い受精卵移植による後継雌牛生産に向けて、乳牛の採卵プログラムを作成するなど、研究成果の広範な活用に努める。
	追跡	持続的な畜産臭気低減システムの開発	a	a	H19～22	本研究により得られた持続的な畜産臭気低減技術の普及拡大を図るため、関係機関との関係を強化するとともに、畜産研究所に設置された実規模プラントの実証展示機能を活用する。
食品加工部会	事前	地場産原料を利用した漬物製品の高品質化と新製品の開発	A	A	H27～29	新製品の開発は、緊急性の高い課題であり、早急に製品化する。また、安全性を十分考慮し、低塩化等品質の向上に取り組んでいく。
	事前	センサーを用いた米菓もち生地の硬化制御技術の開発	A	A	H27～29	既存の冷蔵設備を利用し、簡易な操作でもち生地の硬化状況のモニタリングと制御ができる技術を開発する。
	中間	植物性乳酸菌の探索・分離と食品への利用	A	A	H24～28	今後とも、植物性乳酸菌の分離・選抜を継続し、植物性乳酸菌の特性評価と利用の研究を進めていく。
	事後	県産大豆新品種「シュウレイ」の加工適性の解明	A	A	H23～25	成果を簡単に分かりやすくまとめ、講習会や情報誌に加え、全農や全国の加工組合等に幅広く情報提供を行い、需要拡大を図る。

部会	評価区分	試験研究課題名	部会評価	外部評価	試験期間	対応方向
林業部会	事前	農業用機材を使用したスギ苗木生産の省力化技術の開発	A	A	H27～31	移植作業の機械化については、最優先で取り組み、また、生産者とも十分連携し、できるものから随時、技術移転を進める。
	事前	大径材の構造利用技術の開発	A	A	H27～29	大径材利用の一貫性の技術開発を目指しており、実務者向けマニュアルを作成し、関係業界への普及を図る。
	事後	提案型集約化施業のための林業経営収支予測システムの開発	A	A	H23～25	林業技術者研修等を通じて本システムの普及に努めるとともに、富山県の林業現場により適したシステムとするため、現場からの意見を踏まえた改良に引き続き取り組む。
	事後	公共施設用スギ床材等内装材の製造技術の開発	A	A	H23～25	公共建築物のほか一般住宅等の内装の木質化にも展開できるよう技術の普及に努め、木材利用の拡大を図る。
水産部会	事前	内水面重要魚種資源管理推進調査研究	A	A	H27～31	有識者からの助言を参考に、サクラマス純系魚の特性が明確になるよう、計画的に実験等を進める。
	中間	栽培漁業対象種放流効果等調査	A	A	H24～28	ヒラメでは放流時期の変化や回収率の年変動を考慮し、調査や解析を進める。クロダイでは成長等基礎的資料を蓄積する。

評価の区分

- (1) 事前評価：新規に実施しようとする課題について、必要性や貢献可能性、研究内容が適切であるか等について予算要求前に評価を行う。
- (2) 中間評価：原則として5年以上の期間にわたる課題について、原則として開始後3年目毎に試験研究の進捗状況、社会情勢の変化等を踏まえ、研究内容が適切であるか等について評価を行う。
- (3) 事後評価：試験研究が終了した課題について、原則として終了年度にその研究成果について評価を行う。
- (4) 追跡評価：試験研究が終了した課題について、終了後数年後にその研究成果の普及状況や貢献度について評価を行う。

部会・外部委員会評価における評価基準

	事前評価	中間評価	事後評価	追跡評価	
A	優れている	優れている	優れた成果が得られた	a	貢献度は高い
B	妥当	妥当	良好な成果が得られた	b	貢献度は妥当
C	部分的見直しが必要	部分的見直しが必要	予定された成果にはやや至らなかった	c	貢献度はやや低い
D	全面的見直しが必要	全面的見直しが必要	それほどの成果が得られなかった	d	貢献度は低い
E	実施せず	中止	成果が得られなかった	e	貢献度は非常に低い